

問題児 三木谷浩史の育ち方 (幻冬舎単行本)

問題児

三木谷浩史の育ち方

山川健一



発売日: 2018年2月6日

出版: 幻冬舎

著者: 山川健一

ページ: 200

PDF

日本の未来と希望が
ここにある。

平均以下の成績。有名私立中学退学。熱中したのはテニスだけ。教師を悩ませ、手をわずら
わせ続けた子供時代。

だがその少年は、日本を代表する実業家になった。

少年は両親からどのような教育を受けてきたのか？
前を向き続ける、くじけない心はいかに育まれたのか？
そして、いま何を考え、どのように動いているのか？

本人、両親、そして関係者への取材を経て、初めて綴られる素顔。

内容を一部抜粋

三木谷浩史は十分以上に悪童であった。問題児であった。中学で煙草を吸い、競馬、パチンコ、麻雀に入れ込み、父親の財布から金をくすねた。成績はふるわず、中学の通信簿は5段階評価で2と3ばかりである。欠席日数40日以上、遅刻は30回以上。それが高校2年まで続く。

いつ道をそれてしまってもおかしくない危うさを、この少年はずっと内側に隠し持っていたのだ。

そうならなかったのは、少年の背中を、いつも見てくれる存在があったからだ。父親である。勉強ができないことを、そもそも勉強をしないことを、父親は一度も叱らなかった。母親もそうである。

だが息子の背中を見ていて、ちょっとまずいなという時にはトントンと肩を叩き、小声でアドバイスしてきた。道をそれる直前で、少年は太陽に照らされた明るい世界に戻ってくることができた。

少年の両親は、日本の多くの家族がそうであったように、大きな戦争と敗戦をくぐり抜け、貧しい時代を乗り越えてきた。決して多いとは言えない給料で、3人の子供たちを大学にやった。母親も学習塾で働き、生計を支えた。

その過程で、「本質を見る」ことの大切さを痛切に感じるようになった。だから両親は息子にもそうしてほしいと願ったのである。

(「プロローグ 太陽の子供」より)

<https://k2s.cc/file/5a7e1f6f680eb/vo9EfGxos.pdf.rar>